「自ら学び、豊かな心を育み
実践できる生徒を育てる」

～学校・家庭・地域の特色を踏まえた取り組みを通して～

Ⅰ　教育概要

1　学校教育目標と経営方針
2　本年度の努力点と達成のための重点施策
3　生徒数
4　職員組織

Ⅱ　研修の概要

1　研修主題
2　研修主題設定の理由
3　研修のねらい
4　研修の内容
5　研修組織
6　研修の経過

Ⅲ　実践内容

1　委員会実践部会
2　行事実践部会
3　授業分析・調査分析部会
4　授業実践

Ⅳ　研修のまとめと今後の課題

1　成果
2　今後の課題

片品村立片品中学校

Ⅰ　教育概要

１ 学校教育目標と経営方針

(1)基本目標
心身ともに健康で人間的愛情に満ち、自ら考え、正しく判断し、たくましい実践力のある生徒の育成

(2)具体目標
「確かな学力、豊かな心、強い体力」を求め、気づき、考え、実行できる生徒の育成

(3)経営方針
① 師弟同行・率先垂範・凡事徹底の精神を基に、職員が組織的に協働することにより教育目標の達成に努める。
② 生徒同士や生徒と教師の人間関係、信頼関係の確立に努める。

２ 本年度の努力点と達成のための重点施策

(1)学年・学級経営、生徒指導の充実（社会性、自主性・自律心の向上）
・信頼関係を基盤とした、節度と温かさ・生徒一人一人に心の居場所と出番のある学年学級づくり
・諸活動におけるふれあいを通した多面的な生徒理解と共通理解に基づく積極的な生徒指導の推進
・チャンス相談の活用及びスクールカウンセラーや関係機関との連携の充実

(2)授業の改善と充実（基礎学力の向上、豊かな心の育成）
・授業のねらいと手立て・評価項目を明確にした授業、楽しく学び・身に付く授業の実践
・指導の工夫・改善による基礎的・基本的知識・技能の定着、思考力・判断力・表現力の育成、学習意欲の向上
・校内研修や自己研鑽を通した教員の指導力の向上
・道徳の時間の指導の充実と体験的な活動等を通した、豊かな心の育成

(3)教育環境の充実（潤いのある物心両面の環境整備）
・生徒の人権・人格を尊重する言語環境の徹底（認め、励まし、意欲を高める言葉かけ）
・生徒と教師が一体となった美化活動や奉仕活動の推進
・家庭・地域との連携・交流による落ち着きのある環境づくり

(4)学社連携・融合の推進（開かれた学校づくりと中高一貫教育の充実）
・積極的な情報発信や家庭、地域との連携・協力による信頼関係・協力態勢の構築
・尾瀬高校との連携・協力の充実による尾瀬地域中高一貫教育の効果的推進

(5)安全・危機管理の徹底（安心・安全な学校生活の保障）
・交通事故や生活事故の防止（日常的・計画的な安全指導の継続、安全点検の徹底と迅速な処置）
・いじめはしない、させない、許さないという意識と態度の徹底（人権意識の高揚）
・生徒に危険予測・回避能力をつけさせるための安全教育の推進

３ 生徒数

学　年		１年		２年			３年		合　計
学　級		１組	２組	１組	２組	３組	１組	２組	
生徒数	男	１５	１４	１５	１６	１	１２	１３	８６
	女	８	８	１４	１４		１３	１２	６９
	小　計	２３	２２	２９	３０	１	２５	２５	
計		４５		６０			５０		１５５

４ 職員組織

職名	氏　名	担　当	教諭	青木　理恵	２年主任	養護	真船由美子	保　健
校長	小野　和好	経営管理	教諭	石井　優	２年１組	特別支援員	小林身和子	３組補助
教頭	小室　昌顕	企画運営	教諭	原　雄規	２年２組	非常勤	金子　友美	美術科
補佐事務長	千明　芳夫	学校事務	教諭	野上　和栄	３組担任	非常勤	萩原　裕子	家庭科
教諭	尾崎　和子	教務主任	教諭	須田　秀昭	３年主任	ＳＣ	茂木恵理子	教育相談
教諭	吉野　康弘	１年主任	教諭	瀧澤　裕志	３年１組	ALT	BuhayJorell	英語指導助手
教諭	松井　薫	１年１組	教諭	津久井聡樹	３年２組	公仕	須藤　松子	用　務
教諭	塚越　佑	１年２組	教諭	小曽根一広	全中特配	公仕	千明　太郎	学校施設
教諭	藤井　香穂	１年副担	教諭	阿部　尚人	全中特配			

Ⅱ　研修の概要

１　研修主題

研修主題　「自ら学び、豊かな心を育み実践できる生徒を育てる」

副主題　　～学校・家庭・地域の特色を踏まえた取り組みを通して

２　研修主題設定の理由

片品村は、昨年度より文部科学省委託の人権教育研究推進事業を実施することになり、村の人権教育の研究主題を「豊かな心を育む人権教育の推進」副主題を「～学校・家庭・地域が連携した取組を通して～」として研究を進めている。本校もこれを受け、研修主題・副主題を同一に設定し、目指す生徒像を「自己実現をめざして，努力できる生徒」「互いのよさを認め，互いに支え合える生徒」「正しく判断し，思いやりの気持ちをもって行動できる生徒」として昨年度より実践している。

本校の生徒は、明るく全体的に真面目で、落ち着いた学校生活を送っている。授業や係、委員会活動、毎日の清掃活動など何事にも周りと協力しながら一生懸命に取り組むことができる。与えられた課題は誠意をもって成し遂げられ、授業や普段の生活においても善悪の判断をしっかりつけられる生徒たちである。この点は昨年度４月１２日に実施したＨＵＭＡＮ３（新道徳適性検査）において、全般的に全国比率とほぼ同様及び望ましいとされる割合が高かったことでも裏付けられる（望ましいとされる割合が高い内容項目：寛容・謙虚、人間の強さ弱さ、集団生活の向上、勤労・奉仕、家族愛）。しかし、友だちとの関わりの中で消極的になったり、正しいと思ったことをなかなか行動に移せなかったり、周りに流されてしまったりする場面もしばしば見受けられる。また、授業中には、間違いを気にして発言に消極的になってしまう生徒も多い。学校ではあいさつができるが、地域ではあいさつができないといった声も挙がっている。これらの傾向は上記検査において低くはないが望ましいとされる割合が高いとまでは回答していない以下の項目にも表れている（強い意志、理想の実現、向上心、個性の伸長）。

家庭･地域の特色の象徴である本校ＰＴＡ活動は、「子どもたちをＰＴＡで育てよう」の目標のもと、学校教育に大変協力的である。保護者会参加のあいさつ運動や環境整備活動など、家庭と学校が連携した多くの活動が設けられている。これらの場は、生徒にとって、学校で学んだ豊かな心（人権感覚・心情・実践力）を補充・強化する絶好の機会である。その他に、委員会活動を中心とした「ペットボトル回収、花いっぱい運動、各種募金、友情の絵はがき」等の活動も、保護者・地域の協力なくしてはできない活動である。

今年度はこれらの活動をより計画的・系統的に実施するとともに、人権的視点を重視した道徳授業・学級活動の授業の改善を図っていきたい。そこを基軸にして、学校生活の人権に関わる諸課題を自ら発見させ、一人一人の判断と行動をもって解決を図っていく人権感覚・判断力・実践力を醸成していきたい。学校・家庭・地域の特色を踏まえ、校内研修において共通理解を図り、家庭や地域と連携しながら研修を進めていくことは、自ら学び,豊かな心を育み、実際の行動として実践できる生徒を育てるために効果的な研修であり、本校の教育目標「心身共に健康で人間的愛情に満ち、自ら考え、正しく判断し、たくましい実践力のある生徒の育成」を達成する上でも、大切な研修になるものと考える。

３　研修のねらい

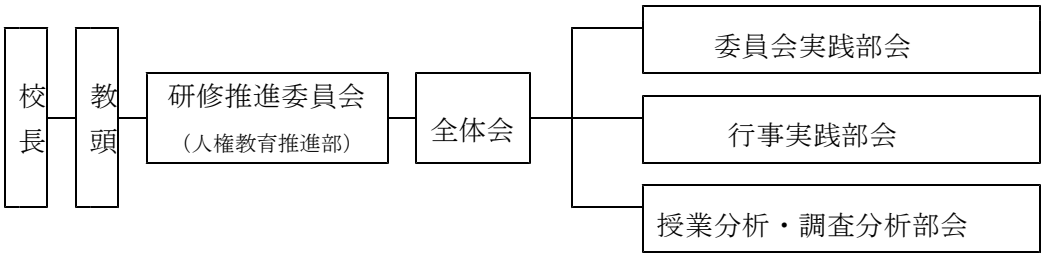
学校・家庭・地域の特色を踏まえた取り組みを通して、自ら学び，豊かな心を育み実践できる生徒を育てる。そのために校内研修において、人権教育を中心とした取り組みの共通理解を図り、道徳・学活を中心に直接的指導を位置づけていく。常時指導や直接的指導を系統的・計画的に行うことにより生徒の人権感覚を磨き、目指す生徒像の実現を目指していく。

４　研修の内容

・生徒、教師の人権教育に係わる実態把握。
・人権教育を意識した授業作りの理解及び授業実践。（一人1授業）
・生徒会活動、学校行事、PTA活動等における人権教育の抽出、整理、立案。
・人権教育との関連を踏まえた年間指導計画の見直し。

５　研修組織

	組　　織	構　　成　　員	研修推進上の役割や主な研修内容
研修組織図	研修推進委員会	学校長，教頭， 研修主任， 人権教育推進部	○研修計画の立案 ○全体会に提案する内容の協議 ○研修の課題の焦点化 ○授業実施計画の作成 ○人権教育全体のコーディネート
	全体会	全職員	○研修内容の確認
	委員会実践部会	津久井　塚越 石井　　須田	○生徒会や専門委員会活動で人権教育に関わる内容の抽出、整理、立案。
	行事実践部会	原　　吉野 青木　　尾崎	○学校行事等で人権教育に関わる内容の抽出、整理、立案。
	授業分析・ 調査分析部会	松井　　藤井 野上　　瀧澤	○指導案検討、授業研究会の推進 ○人権意識に関するアンケートと分析



６　研修の経過

指は指導案検討　授は研究授業・授業検討会□は校内研修，○は部会研修

※その他の研修

月日	内　　容	研　修　の　視　点
4. 4	1本年度の研修について	・前年度の引き継ぎ事項の確認
4.15	2研修主題・副主題の共通理解 部会構成について	・研究主題・副主題に関する共通理解を図る
5.13 5.20	3本年度研修計画の確認 指導主事要請訪問Ａに向けて ①部会別研修	・提出用研修計画書の検討と最終確認 ・指導案の形式について ・各部会の組織作りと研修内容決定及び計画
6.3	4 各部会からの提案内容の確認 ②部会別研修	・学年によるＨＵＭＡＮ、ＮＲＴの分析
6.20	5指導主事要請訪問Ａ 全職員　授―道徳(3-1：瀧澤教諭) 授―学活(3-2：津久井教諭)	・研修内容に基づく授業実践 ・研修についての助言と研修の方向性の見直し
7.8 7.21	6Ａ訪問の指導・助言の確認 今後の方向性の確認 心肺蘇生法講習会 授―道徳(2－1：青木教諭)	・研修の方向性の修正 ・次学期への研修意欲を喚起 ・研修経過の確認と次学期の計画
8.26	7　目指す生徒像について 道徳の重点項目について 道徳年間指導計画の見直し	・Ａ訪問での指導を受け、研修の方向性の見直しと共通理解
9.24 9.30	授―道徳（1-2：塚越教諭） 8指Ｂ訪問に向けて ⑤部会別研修	・Ｂ訪指導案検討（授業の視点、本時のねらい、展開、評価の整合性） ・２学期の部会別実践の確認 ・一人１授業の報告
10.21 10.22	9指B訪問に向けて 授―国語(3-1：尾崎教諭)	・Ｂ訪指導案検討 ・参観の視点の確認・部会別の質問事項の確認 ・一人1授業の報告
11.5 11.11 11.21 11.28	授―音楽(1-1：藤井教諭) 授―数学(1-1：吉野教諭) **指導主事要請訪問Ｂ** **授―道徳(2-1：石井教諭)** 授―生単(2-3：野上教諭)	・研修内容に基づく授業実践
12.2	10Ｂ訪問の指導助言の確認	・研修についての助言と研修の方向性の見直し

12.5 12.9	授―道徳(1-1：松井教諭) 授―理科(1-1：須田教諭) 11⑥部会別研修	・実践してきた全体，部会研修のまとめ ・部会からの報告
1.20	12紀要「校内研修の歩み」， ⑦「片品の教育」について 年間指導計画作成	・紀要や研究物の作成確認と分担 ・研修経過に沿った研修主題・副主題の見直し
2.17	13⑧部会別研修	・部会別年間指導計画の見直し
2.24	14紀要原稿の検討 15⑨本年度のまとめ，来年度の研修の検討　ＣＲＴの結果分析	・本年度の研修の成果と課題を確認 ・来年度の研修の方向性について検討 ・ＣＲＴの結果分析と活用
3.24	16引き継ぎ事項の確認　紀要の完成	・来年度へ向けての引き継ぎ事項の確認 ・来年度の研究主題、副主題の原案作成 ・本年度のまとめ

＊その他の研修

月日	区分	講師	内容・成果
7.8	心肺蘇生救急救命法	講　利根沼田東消防署の方々	○心肺蘇生法とＡＥＤの使用方法 ・心肺蘇生法の手順とＡＥＤの使用方法について、実践を通じて理解することができた。

Ⅲ　実践内容

１　委員会実践部会

（１）部会のねらい

本部会は、生徒が委員会活動を通して、人権を意識した取り組みを主体的に実践していけるよう、啓発していくことをねらいとしてきた。本年度は、片品村の人権教育総合推進地域事業の２年目であり、今まで行われてきた取り組みの継続とともに、新たな取り組みを考え、提案し、実践していく期間と考える。

（２）実践内容・実践方法

①これまでに行っている取り組みの継続。生徒の言葉による取り組みの紹介。

取り組み（委員会）	人権教育との関わり
あいさつ運動（生徒会）	誰に対しても明るく接しようとする心を養う。また、保護者や教員が登校中の生徒と挨拶をすることを通して、生徒の様子を理解し、生徒の挨拶の習慣づけを行う。

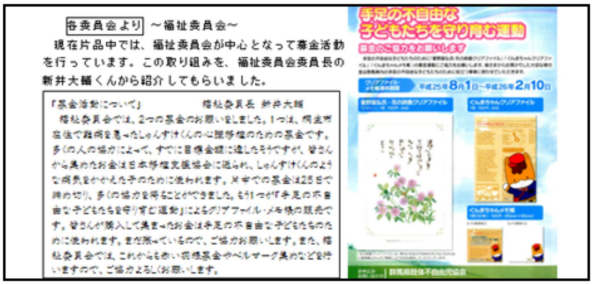
ユニセフ・歳末助け合い・赤い羽根募金、ぐんまちゃんメモ帳購入（福祉委員）	世の中で困っている人のことを考え、金銭的な協力ではあるが、それを通して思いやりのある心を育成する。
環境奉仕日　（美化委員）	普段の清掃ではできない窓ガラス拭きやマラソン大会、体育祭前の校庭整備などを行い、校舎内外をきれいに保とうとする心を養う。
花いっぱい運動（環境委員）	花を育てたり、見たりすることによって、命あるものを大切にしようとする気持ちを育てる。
牛乳パックリサイクル（環境委員）	自分たちの飲んだ牛乳パックが学校で使用するものにリサイクルされることを知ることで、リサイクルの仕組みに関心をもち、環境を守る活動に日常生活の中で参加しているという意識をもつ。
ベルマーク回収（福祉委員）	「全ての子どもに等しく、豊かな環境の中で教育を受けさせたい」という主旨を理解し、自分たちの学校や社会貢献のために、できることを実践していこうとする気持ちを育てる。
エコキャップ運動（保健委員）	ポリオ等の病気で苦しむ人のことを考え、支援しようとする気持ちを育てる。また、ペットボトルのキャップをリサイクルすることにより、環境を守ろうとする心を養う。
人権に関わる本の紹介（図書委員会）	人権教育と関わりの深い本などをまとめて紹介することで、生徒が人権について考えるきっかけを作り、人権への理解を深める。

各委員会より　～花いっぱい運動（環境委員会）～

昨年から環境委員会が中心となって、花いっぱい運動を行っています。この取り組みを、環境委員会委員長の荻原優香さんから紹介してもらいました。

「花いっぱい運動について」　環境委員長　荻原優香

今年度各委員会で人権教育にかかわる取り組みを行っています。みんなの取り組みで、よりよい学校生活になるといいですね。


各委員会より　～福祉委員会～

現在片品中では、福祉委員会が中心となって募金活動を行っています。この取り組みを、福祉委員会委員長の新井大輔くんから紹介してもらいました。

「募金活動について」　福祉委員長　新井大輔

福祉委員会では、2つの募金のお願いをしました。1つは、何度も何度も難病を乗り越えしょんすけくんのような難病症のための募金です。多くの人の協力によって、すでに目標金額に達したそうですが、皆さんから集めたお金は日本難病支援協会に送られ、しょんすけくんのような病気をかかえた子のために使われます。もう1つは「手足の不自由な子どもたちを守り育む運動」によるクリアファイル・メモ帳の販売です。皆さんが購入して集まったお金は手足の不自由な子どもたちのために使われます。まだ残っているので、ご協力お願いします。また、福祉委員会では、これからもあたたかい募金やベルマーク集めなどを計画していますので、ご協力よろしくお願いします。

人権だより　～環境委員会の花いっぱい運動～　～福祉委員会の募金活動～

②人権教育に関わる新たな取り組みを考え、実践する。

３年生の学活で、自分たちにできる人権教育にかかわる取り組みを考える授業を行い、その中で出された意見を各委員会で提案した。

○今年度新たに実践した取り組み

・人権コーナーの掲示、広報だよりの作成（広報委員）

→生徒自身で取り組みの紹介や啓発を行い、意識を高める。

・人権図書コーナーの掲示（図書委員）

→人権集中学習にあわせ、人権に関する図書コーナーを作り啓発する。

（３）成果と課題

人権教育だよりや生徒会通信、広報委員会の活動を通して、各委員会で行われている取り組みを紹介することができた。また、継続して行われている取り組みについても、どのように人権教育にかかわっているのか意識して行うことができたと考える。課題としては、生徒が自分たちにできる取り組みを考えることにより、生徒の視点から様々な取り組みを提案することができたが、実践することができたものが少なかった。生徒に目的意識を強く持たせるとともに、教師による声かけや準備がもう少し必要であった。各委員会で、より主体的な取り組みができるよう、話し合う時間を設けていきたい。

花いっぱい運動

人権図書コーナ

２　行事実践部会

（１）部会のねらい

本部会は行事を通して、生徒・教員が人権を意識した取り組みを実践していけるよう、啓発していくことをねらいとしてきた。

（２）実践内容・実践方法

○５月の授業参観で全クラスが道徳の授業を公開

第１回の授業参観では全クラスが道徳の授業を公開した。１年生は「信頼」に関する授業、２，３年生は「あいさつ」に関する授業を行った。学校での道徳の取り組みを公開できたとともに、家庭への啓発につながった。

○人権集中学習の実施

全校で校長先生の講話、生徒による人権作文の発表を聞いた後、各学年に分かれ、学年代表の人権作文発表、人権に関するビデオ視聴、標語の作成を行った。後日各クラスでいじめに関する道徳の授業や人権アクティビティを実践し、計画的に人権集中学習を行うことができた。

期日　１１月２５日（月）～１２月６日（金）

内容　①校長講話

②人権にかかわるアクティビティ

１年：いいとこさがし　　２年：権利の熱気球

３年：差別は心の中に

③道徳・いじめの授業

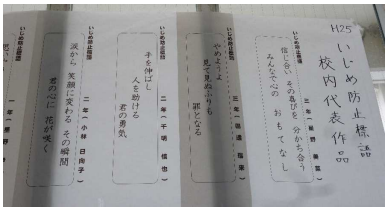
④生徒作文発表

⑤映画等視聴と感想文

１年：『えっこれも人権？』　２年：『ひとみ輝くとき』

３年：『栗生の園に生きた証　～みんなのために～』

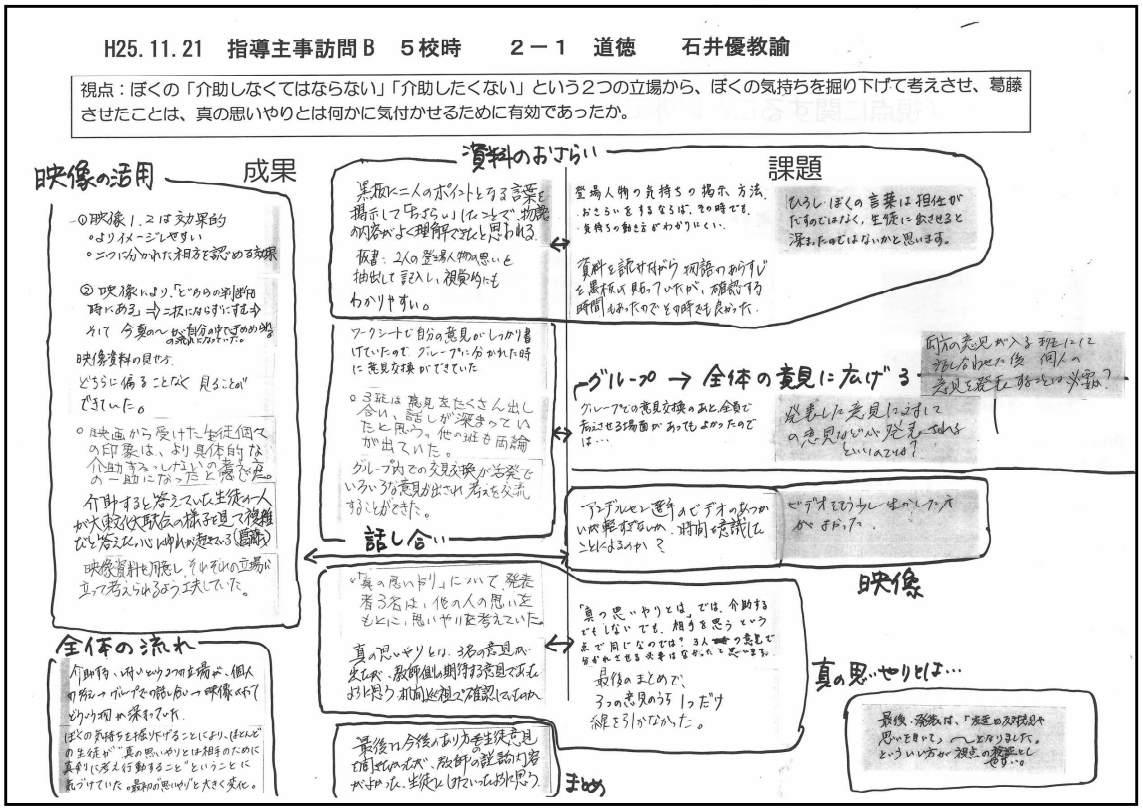
⑥いじめ防止標語の作成
⑦広報・啓発（お便りを通して授業の様子や生徒の感想を家庭へ発信・生徒作成標語の掲示）



○ PTA 行事や学校行事と関連させた道徳の授業の実践
尾瀬環境ボランティアや体育祭などの学校行事を振り返り、生徒たちの取り組みと関連させた道徳の授業を実践した。
○人権だよりの発行や学年だより、学級だよりに人権の内容を掲載
人権だより、学年だより、学級だよりに人権の内容や授業の様子・生徒感想などを掲載し、家庭への啓発を行った。また生徒玄関前にいじめ防止標語を掲示などし、日頃から関心や意識を高められるよう取り組んだ。
（３）成果と課題
全学級で道徳の授業を公開し、家庭への啓発につながった。学校行事には人権教育に資する部分も多く、行事や体験を通して学んだことを道徳の授業で深化・統合する効果は大きいことが確認できた。また、人権集中学習では全校を上げて計画的な指導を行うことができ、生徒への啓発につながった。道徳では、重点項目を決めて指導を行ったり、一人１授業で積極的に道徳に取り組み、授業研究会を行う中で、教職員に道徳の授業を大切にする意識が高まった。学校生活の中には人権教育につながる様々な活動がある。生徒が一人一人の人権を意識できるようにするために、生徒主体の活動を広げていきたい。人権コーナーの工夫や生徒集会の工夫とあわせ、行事を通して生徒が人権を意識できるような取り組みを実践していけるよう工夫していきたい。

３　授業分析・調査分析改善部会
（１）部会のねらい
本部会では、一人一授業とその後の授業研究会を日々の授業実践に活かし、主題の達成、教科のねらいの達成を目指すことをねらいとして活動した。本年度は特に、一人一授業・授業研究会への参加の徹底、授業研究会の持ち方の工夫に重点を置いた。
（２）実践内容・実践方法
○一人一授業・授業研究会への参加
今年度は職員を３つのグループに分け、授業者の所属するグループの構成員は全員授業を参観することとした。時間割を調整してもらうことにより、管理職や都合のついた職員も含め、多くの職員が授業を参観することができた。
○授業研究会の方法
付箋を用いたKJ法・マトリクス方式で行った。視点に関する成果を水色、課題をピンクの付箋に記入し紙面にまとめ（次ページ）、それをもとに授業研究会を行った。授業の視

点を示し意見交換したことで、改善点を焦点化して見出すことができた。



〔その他〕

○５月の授業参観で全学級が道徳の実践をした。

○学年ごとに道徳で一人一授業を行い、その際学年会で指導案検討を行った。

○内容項目「２－（２）思いやり」に関する道徳授業を全学級が実施した。

○１２月の人権週間に合わせ、いじめに関する授業を実践した。

○各学年で道徳の年間指導計画の見直しをした。

（３）成果と課題

職員を３つのグループに分けて時間割を調整してもらうことができ、多くの職員が参観し、授業研究会を行うことができた。付箋紙を用いたマトリクス方式を取り入れたため、視点を絞って参観・研究協議を効率よく行うことができた。全教職員が１回以上の授業研究を行いお互いの授業を見合うことで、支援の方法や課題の取り組ませかたなどを学ぶことができた。

４　授業実践

実践例１（第３学年学活）

学級活動指導案

１　本時の学習

（１）題材　　自分たちにできる人権教育にかかわる取り組み

（２）ねらい　自分たちにできる人権教育にかかわる取り組みを考え、進んで実践していこうとする気持ちを持つことができる。

（３）準備　　学級会ノート、議長カード、タイマー、ワークシート

（４）展開

学習活動	時間	指導上の留意点・支援　　評価項目
１　本時の活動を確認する。	８分	・議長団の説明に補足しながら、意見を言いやすい雰囲気作りを心がける。 ・人権啓発活動の必要性・重要性を感じられるように、アンケートの結果を紹介する。 ・現在行われている委員会ごとの取り組みを示し、委員会ごとに新たな活動を考えたり、啓発活動を行ったりすることが必要であることを理解させる。
２　自分たちにできる人権教育にかかわる取り組みを考える。 ３　意見に出た取り組みの良さを考える。	１５分 １５分	・意見を言いやすくするために、事前にワークシートに記入させた意見を見ておき、個別に発表を促す。 ・委員会ごとに取り組みを考えられるように、委員会を限定した意見とそうでない意見とで分けて板書させる。 ・話し合いが滞ってきたら、3～4人の小グループになって、自分たちの委員会について話し合うように促す。 ・取り組みを提案できない委員会がないように、取り組みが挙がらない委員会があれば、その委員会に絞って考えさせる。 ・出された取り組みに対して、「どのように人権教育につながるか」という観点で、意見を求めさせる。
４　本時のまとめをする。	１２分	・各委員会で提案できるように、自分の委員会でできる取り組みをワークシートにまとめさせる。 ・話合いの振り返りができるように、考えたことをワークシートに記入させる。 ・委員会で提案や実践に向けた意欲を高められるように、話合いでの良い意見を採り上げ、賞賛する。 評価項目 人権教育の視点から、自分たちにできる取り組みを考え、実践に向けて考えをまとめている。 思考・判断・実践】(ワークシート・発言)

２　授業を終えて

各委員会で人権教育にかかわる取り組みを行ううえで、生徒が主体的に取り組めるように、生徒自身に取り組みを考えさせることを目的として授業を計画した。また、教師の目線からは思いつかない取り組みが提案されることも期待して授業を行った。最終的に、各自が委員会で提案する取り組みを決めるように計画したが、授業の様子から委員会ごとに決める形をとった。

３　成果と課題

成果としては、自分たちで取り組みを考え、さらにそれがどのように人権教育につながるのかを考えることで、人権についての考えを深めることができた。また、最高学年として主体的に提案・実践する意欲が高まったと思われる。委員会によっては、大人が思いつかないような取り組みが挙がったことも成果である。

課題としては、準備不足により「話し合い活動」としてはうまく行かなかったところが多かった。意見が出た後に、「もっとこうすれば」ということを考え、それについての意見も出たので、題材を見て話し合いの方法を考えるべきであった。生徒が考えた取り組みが、委員会によって提案・実践まで至らなかったところもあるので、もっと事後指導が必要であったと考えられる。

実践例２（第２学年道徳）

道徳学習指導案

１　主題名　「真のやさしさ」　２－(2)（人間愛、思いやり）
　資料名　「ぼくは伴走者」（出典　　「日本文教出版　あすを生きる　３」）

２　本時の学習

（１）ねらい　「ぼく」の気持ちを掘り下げることにより、真の思いやりとは相手のために真剣に考え行動することであることに気付かせ、思いやりをもって行動しようとする意欲を高める。

（２）準備　　資料、場面絵、短冊、ワークシート、映像資料

（３）人権教育の視点
　感性：たとえ相手の望まないことであっても、相手のことを真剣に考え行動することが大切であると気づくことができる。

（４）展開例

過程	学習活動と主な発問	時間	予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	1思いやりについて質問する。	5	・やさしさ ・人のことを考える ・助け合い ・困っている人を手伝う	○今までの生活を振り返り、自分が知っている思いやりについて発言させる。
展	2資料を読み、自分が	4		

開	「ぼく」なら介助するか、介助しないかを考える。 発問1 あなたが「ぼく」なら介助しますか。介助しませんか。	0	○介助する ・走者の安全を守らなくてはいけないから ・普段と状況が違うから ・最低限の介助をしたい ○介助しない ・たくさん練習してきたから ・ひろしの気持ちを尊重したいから ・ひろしの目標や夢を叶えたい ・今までの頑張りを自分の手で壊したくない	○正解や間違いがないことを理解させ自分の意見をしっかり持たせる
	3各グループに分かれ意見の交換を行う。			○グループ内で意見交換し、いろいろな意見があることに気付かせ、考えを深める。
	4介助する、介助しない場合の意見を整理し、2つの場合についてさらに考える。			○2つの場合を全体で整理し、最終的に自分の意見が深まるように映像を用いて考えられるようにする。 ○補(補)「押さなかったらどうなるだろうか。」 ○補(補)ひろしとの今後の関係はどうなるだろう。 ○補(補)ひろしはどんな思いでがんばってきただろう。 ○補(補)「車いすを押すということはどういうことだろうか。」
	5思いやりについて考える 発問2 **今日の授業から、真の思いやりとはどんなことだと思いましたか。**		・ありがとうなどの感謝の言葉や優しい言葉だけではなく本人の気持ちに寄り添うもの ・その人のことを真剣に考える ・助けることも見守ることも思いやり	○自己や他の考えを聞き思いやりとは相手のことを真剣に考えて行動することを想起させる。
	6ワークシートに記入する 発問3		・相手のことをよく考えて行動していきたい	○自己の考えを振り返り

	今日の授業を通して、今後どのように友達と接していこうと思いましたか。		・優しくするだけでなく嫌だと思う事も相手のことを考えると時には必要と言うことがわかったので相手の気持ちをしっかりと理解する努力をしていきたい。	まとめさせ、今後、思いやりをもって行動したり、相手のことを真剣に考えたりする意欲に結びつける。
終末	7教師の説話を聞く	5		

２　授業を終えて

○難しいテーマだったが「思いやりとは」に絞って指導案を作成し、生徒たちが「真の思いやりとはどういうことなのか」について考えを深められるように意図した。生徒のワークシートを確認したところ、多くの生徒が「相手の気持ちを考えることが一番大切である」と記述していた。真の思いやりとは相手のことを真剣に考えて行動することであるという点について考えを深めることができたと思われる。しかし、思いやりをもって行動しようとする意欲を高めるまでには至っていない。今後は行動に移す為の手立てなどを工夫していきたい。

３　成果と課題

○範読を工夫し、生徒が物語を良く理解したことにより、ひろしの「自分の力で完走したい。」という強い思いや昨日の雨でコースコンディションが悪い中、ひろしの限界が迫ってきている危機的状況で介助するか否かに葛藤する主人公の気持ちが生徒たちに浸透させることが出来た。話し合い活動の際、発表するために意見をまとめようとすると、良い意見の生徒の解答のまま発表していたので、話し合いの練習がもう少し必要である。

実践例３（第１学年道徳）

道徳学習指導案

１　本時の展開

（１）主題　だれもが幸せな社会をつくる　　４－（３）正義・公正・公平

資料名「魚の涙」（「きみがいちばんひかるとき　１年」　光村図書）

（２）ねらい　“いじめ”に対する筆者の行動について考えることで、差別や偏見なく行動できる勇気を持ったよりよい集団形成への心情を育む。

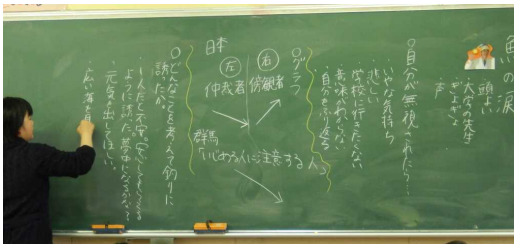
（３）準備　掲示用写真、ワークシート

（４）展開

過程	学習活動	時間	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	1. ①資料冒頭部分の言葉について考える。 ②筆者について ・さかなクンのイメージに	7分	●ワークシートの文章について、当てはまる言葉を考えましょう。 ●さかなクンについて知っていることを述べましょう。 ・魚に詳しい ・帽子をかぶっている	

	ついて考える。		・おもしろい	
展開	2. ①資料前半部を読んで、考え話し合う。 ②副読本資料と群馬のいじめアンケートを提示する。 ③資料後半部を読んで、考え話し合う。 （◎→3～4人の班に分かれ、意見を交換する）	8分 5分 20分	○自分がこの「友人」のように無視されたら、どんな気持ちになりますか。 ・嫌な気持ち ・もう部活に行きたくない ○それぞれのグラフからどんなことがわかりますか。 （国別）・学年が上がるにつれて仲裁者は減り、傍観者が増えている。 （群馬）・「いじめる人に注意する」人がだんだん減っていく。 ●筆者はこのあとどうするでしょうか。 **◎筆者は、どんなことを考えて仲間外れにされた友人を釣りに誘ったのでしょうか。** ・自分は海を見ると嫌な気持ちを忘れるので、友人にも同じ気持ちになってほしかった。 ・学校から離れて気を晴らしてほしい ・注意できなくて申し訳ない。 ○「広い空の下、広い海へ出てみましょう」とありますが、筆者はどのようなことを私たちに伝えたいのでしょうか。 ・狭い世界にいるからいじめが起きる。 ・小さいことは気にせずに、前を向いた方がいい。	・「いじめはいけない」と頭では理解していても、実情はそれに対し行動できない人が多いということを認識させる。 ・いじめている人に直接注意は出来なかったが、筆者の仲間に対する勇気ある思いやりの行動をとらえさせる。
終末	3. ①本時の授業の感想を記入し、発表しあう。 ②教師の説話	10分	○今日の授業を振り返り、感想を書きましょう。	

2　授業を終えて



○いじめについて、頭では「いじめはいけない」「注意しなければいけない」とわかっている生徒が大半であるが、実際は傍観者が年が大きくなるにつれて増えていくという現実を、実際のアンケート結果（国際比較のグラフと、群馬の中学生のグラフ）を提示すことで自覚させようと考え、今回の授業の視点とした。生徒は資料を見ることで、実際の問題として深くとらえることができていた。

３　成果と課題

○アンケート資料を提示したことで、生徒の実際の生活を振り返らせることができたが、提示するタイミングやどこをポイントとして押さえるかを吟味して活用する必要があった。また、グループでの話し合いをさせる際に、どのような目的で話し合わせるかしっかり意識させないとただ意見を発表するだけの場になってしまうということが課題点としてあげられた。

○人権集中学習の中に位置づけて授業を行うことで、計画的な指導を行うことができた。

○学級だよりや人権だよりで授業の様子を紹介し、家庭への啓発を図った。

○授業を通して考えた「いじめと向き合う心」を実生活の中で実践できるよう指導を継続していく。

Ⅳ　研修のまとめと今後の課題

１　成果

昨年度より人権教育に視点をあてて取り組んでいる。委員会活動や道徳の授業の充実、行事と連動させた人権教育の計画的な推進を目指し取り組んできた。その結果、以下のような成果を得ることができた。

○生徒会による「言葉」を意識した集会の実施、ほかほか相談室の実施、各委員会による人権活動の提案、人権コーナーづくりなど、昨年度の実践をさらに深め、生徒が主体となった人権に関わる取組を実践できた。

○人権だよりや学級だよりで人権に関わる取組や道徳の授業の様子などを紹介したり、授業参観で道徳の授業を公開したりして地域・家庭への啓発を行うことができた。生徒の人権に対する意識も高まった。

○道徳の時間を人権教育の要とするため、重点項目を２－（２）思いやりとし、年間計画の見直しを行った。行事と関連させた指導が有効であることが共通理解できた。さらに、指導者の道徳の時間を充実させる意識が高まった。

○一人１授業、授業研究会の実践により、お互いに授業を見合ったり、意見交換したりすることで指導力の向上を目指すことができた。

○人権集中学習では、生徒の実態に合わせた計画的な指導を行うことができた。

２　今後の課題

○各委員会活動やＰＴＡ行事の意義を考えたり意識させたりするための指導や、言葉を大切にするなどの日常の指導の工夫をさらに図っていく。普段の生活の中で一人一人を大切にする言動ができるよう、人権教育を推進していきたい。

○学校から家庭・地域への啓発・発信等は少しずつ推進されているが、双方向のやりとりができるよう、家庭・地域との連携をさらに充実するための方策を考えていきたい。

○生徒の人権感覚はもとより、良さを認める授業づくりに向け、指導者の人権感覚もより一層高めていきたい。

○道徳を人権教育の中核に据えた研修の充実をさらに深めていきたい。（目指す生徒像の確立と共通理解、学校行事・特活・総合・ＰＴＡ行事との効果的な連動）